

特養おやつ死亡事故 長野県安曇野市の特別養護老人ホームで2013年、入所者の女性＝当時(85)＝がおよつたのドーナツを食べた後に死亡した事故を巡り、配膳した准看護師が業務上過失致死罪に問われた。一審は過失を認めて罰金20万円の有罪としたが、二審の東京高裁は今年7月、女性がドーナツを食べて窒息する危険性は低く死亡の予見可能性も低かったとして無罪を言い渡した。

「もし有罪だったなら介護は危険性を伴う仕事というイメージが広がっていた。無罪は率直にほっとした」。福岡県老人福祉施設協議会の永原澄弘会長は裁判の結果を受けてそう話した。

公益財団法人「介護労働安定センター」(東京)が昨年10月に実施した調査によると、介護従事者2万1585人のうち過去1年間で業務上の事故があったのは22.6%、事故になりかける「ヒヤ

高齢者の誤嚥のリスクと隣り合わせの介護現場。長野県の特別養護老人ホーム(特養)で入所者がおやつを食べた後に死亡した事故を巡る裁判で、配膳した准看護師の逆転無罪が確定。現場の萎縮を懸念する福祉関係者からは安堵の声が上がった。安全を確保しながら高齢者の生活の質をどう保障するか。奮闘する現場を訪ねた。

(梅本邦明)

「食の安全」「食の満足」 どう支える



味はもちろん、安全性や見た目も配慮されたソフト食をほおぼる舞風台の入所者

誤嚥と向き合う介護現場

「リハット」を経験したのは56.4%だった。背景には介護人材の不足がある。永原会長が運営する同県赤村の特養「青葉園」では要介護3以上の入所者約30人に対し職員は13人。国の基準(入所者3人に対し職員1人

「ソフト食」導入の施設も

以上)は満たすが「職員1人が受け持つ入所者を2人以下にしないと余裕ある介護はできない」。同センターの調査でも全国の介護事業所約9千カ所のうち65.3%が人手不足と感じていた。

永原会長はその原因を「十分な介護報酬」と訴える。厚生労働省によると、介護職員の給与は月額22万9700円(昨年6月、残業代を除く)で、全業種平均30万7700円(同)を約25%下回った。淑徳大の結城康博教授(社

会福祉学)は「事故は個人ではなく組織や社会の責任。十分な人員を確保できるように国は財源を確保すべきだ」と指摘する。

* 今回の判決は食事やおよつの提供が「精神的な満足感や安らぎを得るために重要」と言及した。結城教授は「介護は生活の質も大切だと裁判所が認めたことは大きい」と評価する。

取材に訪れた日の昼食は鶏肉のつくね煮。記者もいたが、かますにむせることなくのみ込めた。普通のつくねと変わらず、おいしい。入所者の女性(81)は「毎日の食事が楽しみ」とほほ笑んだ。

ソフト食は宮崎市の管理栄養士黒田留美子(70)が1990年代後半に考案し、全国に広まった。さまざま工夫で食べ物の中でバラバラにならず、かまなくても上顎と舌で押しつぶして食べられる。



別府歯科医院 中尾祐副院長

高齢者の誤嚥はなぜ起こるのか。福岡市東区の別府歯科医院の中尾祐副院長(46)にその仕組みや事故防止の注意点を聞いた。

食事の際、人はまず食べ物を大きく形を認識する。食べ物を口の中に入れると、唾液を混ぜながら奥歯ですりつぶし、のみ込みやすい形状の「食塊」をつくる。食塊は舌を上顎に当ててのど奥に送り込まれ、食道を通って胃に入る。

高齢化すると、かみ合わせが悪くなる歯の疾患▽脳梗塞など

誤嚥なぜ? かむ機能衰え「食塊」つくれず

による口腔や喉のまひ▽周りの筋力の低下などが起き、ものをかんだりのみ込んだりする機能が衰えるという。

かむ回数が減ると食塊がつかず、食道ではなく気管に入りやすくなる。飲食物や唾液に含まれる細菌が気管から肺に入ると「誤嚥性肺炎」を起こしやすくなる。厚生労働省によると2018年に誤嚥性肺炎で死亡した人は約3万8千人に上る。

とはいえ栄養価などを管理せずに安易に軟らかい食事はばかりを提供すれば低栄養などの問題が起きる可能性もあるという。「高齢者が普段の食事をきちんとかめているかどうか、歯科医に定期的に診てもらってほしい」と話した。